

エスチュアリ

Estuary 022

～いしかり砂丘の風資料館だより～

資料館に展示されている怪しげな頭蓋骨。カマイルカです。

埼玉県の後藤啓之さんが、石狩浜の砂丘に転がっているのを見つけました。後藤さんは子どもの頃この近辺に住んでいて、久しぶりに里帰りして散歩していたところ、偶然に発見したそうです。

資料館に持ち込まれた時は、ミイラのようになった皮膚や、中身（つまり脳）も少し残っていて、かなりの異臭を放っていました。おかげで周囲からだいたい白い目で見られたものです。が、少しずつカチカチの皮膚をナイフで剥ぎ取り、スプーンで「中身」を掻き出し、さらに薬品処理をして、どうにか展示できるようになりました。◆

（志賀健司 しがけんじ）

カマイルカはハクジラ類（イルカやマッコウクジラ）で、北太平洋の北部に生息し、全長2mくらい。

鼻の穴の前からクビバシの上には「メロン」という器官がある。これは周囲をさぐるために出す音を集中させる役目も果たすらしい。

カマイルカ（頭骨）

Lagenorhynchus obliquidens

ハクジラ亜目マイルカ科

採集日 2005年4月22日

採集地 北海道石狩市石狩浜

全長 42cm

全幅 20cm

歯が30本ほど残っていた。



-1-

展示資料の ひみつ リターンズ

鼻の穴。
クジラやイルカの鼻は、頭蓋の中心に上に向いている。
ここから出る噴気が、いわゆるクジラの「潮吹き」。

首の付け根の穴から中身を掻き出した。とてもくさい...

眼はここ。

ハクジラ類の頭骨は左右非対称なのが特徴。上から見ると鼻の穴がズレているのがわかる。



るば le pas

まっつうーを狙え！②



松浦武四郎について、展示されています
(深川市郷土資料館の展示より)



併設の科学館で
セスナの操縦！

★「るば」(仏語: le pas)とは、日本語では足跡とか歩み、進歩という意味です。博物館は過去から未来への、私達の物語が詰まった場所です。人間が歩んできた道のりを学ぼうという気持ちを込めてつけたタイトルです。

★サブタイトルの「まっつうー」とは…？
本文にその答が！

サブタイトルの「まっつうー」は誰か、正解は松浦武四郎さまで。江戸時代末期の蝦夷地探検家で、「北海道」の名付け親でもあります。彼は、道内をくまなく探検し、当時の環境や人々の暮らしなどを紀行として記しています。

前回(エスチュアリNo.21)の写真は小平町の銅像です。天塩川流域や海岸線を調査し、訪れた時のものでしょう。彼ら一行が現在の美深町周辺を川で遡った時には、舟にチョウザメが群れをなして近づいてきたという記載があります。これは当時の自然を知る上で貴重な内容です。美深町では現在、チョウザメの養殖を行なっています。

また、彼は石狩川流域の踏査も行なっています。そこでもチョウザメを見たという記載があるようです。チョウザメは2004年春、石狩川河口でも発見されています。

先日、深川市郷土資料館を訪れた際にも、雨竜川を踏査したまっつうーの足跡をみることができました。館内にはその他、東広里遺跡(擦文時代)から出土した鉄斧や炭化米などが展示されています。また、科学館も併設されています。そこでは、セスナの操縦をゲーム感覚で疑似体験することができます。離陸してから深川市内上空を散策し、風景を一望できます。私は操縦に四苦八苦で風景を楽しむ余裕などありませんでした。着陸にいたってはまったく指示通りにできず、やり直してやっと着陸できました(^_^;)。さすがのまっつうーもこの景色は見たことがないでしょう。操縦に自信のある方も、ない方にもオススメです。◆

(元 石狩紅葉山49号遺跡調査補助員 西方麻由 さいほうまゆ)

深川市郷土資料館

深川市西町3-15 深川市生きがい文化センター内
休館日 毎週月曜日、祝日、第4日曜、年末年始
TEL 0164-22-3555

私の資料館勤務も半年が過ぎました。それまで休止気味だった私の脳は、たくさんのお客様の笑顔で活性化しつつあります。

この夏、韓国とフランスからのお客様にも来館していただきましたが、卒業以来、英語にすら縁のない私です。日頃から正しく美しい日本語も話していないのにフランス語なんて…。よしっ！『ボンジュール』で何とかなるかも？と、気を落着けてみたものの、やっぱりしばらくの間、固まってしまいました。そのうち彼がリーフレットの絵を指して「これはアイヌですか？」と聞き慣れた言葉が耳に入り、ホッとしました。おかげで私の鼓動も正常になり、簡単な日本語と彼の電子辞書で、何とかコミュニケーションをとることができました。

彼は、「自転車道内を廻り、アイヌに興味があるのだ」と教えてくれました。展示の一つである紅葉山49号遺跡の工の柵を見て、四千年前の縄文人の知恵と巧みな手仕事に「すばらしいです！」と笑顔で言い残し、去って行きました。

このように私の大切な心の宝がいっぱいになるように、これからもたくさんのお客様にお会いしたいと願っています。◆

(資料館スタッフ
大坂小百合 おおさかさゆり)

お客様が
特効薬

これからの講座・展示

野外講座

石狩ビーチコーマーズ '06冬の漂着物

浜辺で漂着物を探し、海の世界や文化を考える知的な遊び、ビーチコーミング。春、秋に続き、今年度3回目です。今秋の石狩湾周辺の海水温は平年より2℃ほど高く、アオイガイやマンボウなど、例年はめったに見られない温暖域の生物がたくさん出現しています。タコが作った繊細な貝殻アオイガイ、漂着のピークは終わったようですが、よく探せばまだ見つかるかも。また、運がよければオオワシやゴマフアザラシと出会う？

(詳細は資料館ホームページ、市広報2月号で。)

■日時 2月下旬

■場所 資料館～石狩浜

2月
受付

ちいさな博物館(テーマ展)

2005年のコレクション

「浜辺で動物の骨を見つけた!」、「大掃除していたら昔の民具が出てきたので…」と、ときどき市民のみなさんから資料や標本をいただくことがあります。もちろんそれは大歓迎。しかし、寄贈していただいたものをすぐに展示に出せるかというと、実はなかなか難しいのです。資料の状態(傷み、汚れなど)は? 展示スペースはある? 他の展示資料との関係は? …などなど。かといって、いつまでも待たせては申し訳ありません。そこで、この1年間の集大成ということで、寄贈された資料を大公開!

■期間 1月7日(土)～1月30日(月)

■場所 資料館1階 市民交流ひろば

1月
開催

↓↓↓ これまでに、こんな講座や特別展を開催しました ↓↓↓

野外講座 4月17日に開催しました

石狩ビーチコーマーズ 雪解け後の漂着物

アザラシの白骨死体に加え、人間の顎骨!を発見…

テーマ展 4月29日～5月29日に開催しました

漂着する動物たち

体験講座 7月～10月(全5回)に開催しました

プロジェクトM: 博物館をつくれ!

標本や化石のレプリカづくりなど、博物館学芸員の仕事を体験する「プロジェクトM」。今年は新メニューとして、地層の観察にも出かけました。地層のサンプルを採ってきて砕き、顕微鏡で見ると…、600万年前のプランクトンの化石がたくさん!

野外講座 10月2日に開催しました

石狩ビーチコーマーズ 秋の浜辺の漂着物

秋のビーチコーミングでは、謎の肩甲骨、ロシアや韓国で使われるという白樺浮き(樹皮をまるめて作った浮き)などが採集されました。漂着物にも詳しい北海道教育大学岩見沢校の鈴木明彦先生も参加、いろいろ教えていただきました。



特別展 9月1日～10月31日に開催しました

サケの考古学

今年の特別展は、北海道のサケと人間の歴史がテーマ。銚先やサケ皮をなめす道具など、道内各地のサケ関係の出土遺物や歴史資料を展示しました。中でも人目をひいたのが「魚皮衣(ぎょひい)」。サケ皮で作られた着物で、全部で60匹のサケ皮が使われています。



体験講座 7月16日、31日に開催しました

古代人の土器づくりに挑戦

体験講座 7月31日に開催しました

勾玉づくり教室

夏の暑い日差しの中、弁天歴史公園を会場に開かれた勾玉づくり。大人の方数人と子どもたちとで、ボランティアの方々の変わったデザインの勾玉を参考にしながら、思い思いの作品づくりに汗を流しました。

(主催: 砂丘の風の会)

開拓記念館公開講座 11月26日に開催しました

森をまもる、利用する

～暮らしに身近な森林の歴史～

(主催: 北海道開拓記念館、共催: 砂丘の風資料館)

虹色の波の花

12月になりいよいよ冬本番です。今年の冬は雪が遅かっただけに、一層寒さが身に染むように感じられます。この季節、厚田や浜益の岩場に行くと波の花が見られるようになります。波の花は一説には、海中を浮遊する植物性のプランクトンの粘液などが波にもまれてできるという話です。また最初は白ですが、時間がたつと黄色く変化するそうです。

11月末に厚田の正利冠川（まさりかづがわ）河口で、早くも波の花が海岸に打ち寄せられているのが見られました。ここは石浜と砂浜が入り混じっていますが、海中に岩礁があるせいで波の花が見られます。正利冠川は幅3メートルほどの小さな川で、水量が少ないため水深が浅く簡単に対岸に渡れることが多い。その日も川を越えて海水浴場の方に行こうとしたら、そこでとてもきれいな波の花を見つけました。その波の花は、小さなシャボン玉をたく

さん集めたようなもので、しかも虹色に輝いているのです。付近を見回しても、そんな波の花は他では観察できませんでした。

数日して、今度は聚富（しっぷ）の海水浴場付近の川の河口で、同じような虹色の波の花を見ました。どうやらこの波の花は川と関係があるらしい。本当の原因は、まだわかりませんが、色からして油膜と泡が結びついてできたと想像されます。最初は、ゴミと共に漂着した漁船などのオイルを疑いましたが、海や海岸にはオイルの痕跡はありませんでした。

実は、油といえば、この付近には石油が埋蔵されています。また、正利冠川の源流部にもかつての石狩油田があり、今も原油が地表に出ています。ですから、虹色の波の花が油に関係するとすれば、この付近の土地の歴史と関係する可能性があります。この推測が当たっているとすれば、虹色の波の花は毎年見られるのではないかと思います。◆

（※この記事を見て、現地に行こうとする方は、高波の季節ですので、くれぐれもご用心を！）

（石橋孝夫 いしばしたかお）

ぬくもりを感じる 缶詰づくり

明治10年、日本初の缶詰工場が石狩で操業した由来から、資料館には缶詰作りができるコーナーがあります。お客様が持参された物（生もの・液体の類はダメ）を缶の中に入れ、手回しの機械でフタを付けたら完成です。ときどき雑誌やテレビなどのメディアで紹介されることもあります。ですが、それ以外はあまり宣伝もしていないので、知る人ぞ知る穴場です。

先日、お孫さんへのお年玉入り缶詰を作るというご夫婦が来館されました。缶切りを使ったときに中が切れてしまうという機械を動かしているときも『これを開けたら驚くぞ』と楽しそうにしていらつしやいました。お正月、お孫さんはどんな顔をして缶詰を開けるのでしょうか。そして、近い将来、その缶詰が作られた場所を訪ねてくれるといふなと思っています。

みなさんも、誰かへの贈り物に缶詰を作ってみませんか？ ◆
（資料館スタッフ 倉雅子 くろはらこ）

■最近の「いしかり博物誌」（市広報に連載中）

- ☞第70回：サケ皮の装い（10月号）
- ☞第71回：化石のたまご（11月号）
- ☞第72回：アオイガイぶかり、ぶかり（12月号）
- ☞第73回：北のイタヤと南のカシワ
～変化に富む石狩の海岸風景～（1月号）

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp> →いしかり博物誌

編集後記

2006年の目標は、基礎体力づくり！ と言っても、博物館としての基礎体力。展示や講座をやるためには、その材料となる資料の収集・整理、データの蓄積がしっかりしていなければ。またもや久しぶりになってしまった、エスチュアリ。今度こそ3ヶ月ごと発行の復活を宣言します！ 「展示資料のひみつ」も、第6号以来の復活。(K)

エスチュアリ No.22

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分
休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
入館料 200円（中学生以下は無料）、団体料金160円（15名以上）
交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、「石狩温泉」下車、徒歩1分（石狩温泉「番屋の湯」となり）

2005年12月31日 発行

いしかり砂丘の風資料館

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL/FAX: 0133-62-3711

i-museum@bz01.plala.or.jp

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>